

令和4年度第2回 尼崎市いじめ問題対策連絡協議会

「子どもの**声**をキャッチし、動く、 いのちのセーフティーネットを ～子どもアドボカシーの現場から～」

ちゃんときいてくれて
ありがとう！



大阪人間科学大学
吉池毅志
(よしいけたかし)
精神保健福祉士
尼崎市子どものための
権利擁護委員会 委員
2023年2月10日

本日の目的地

はじめに わたしのライフヒストリーと社会問題・活動紹介

- 1 私たちの社会 ～精神科病院から見える景色～
- 2 子どもたちの世界 ～それでも生き抜くために～
- 3 命を落とさないために
～声を聴く・応答する～

※散らばった話から、何か一つでも拾っていただければ・・・

はじめに

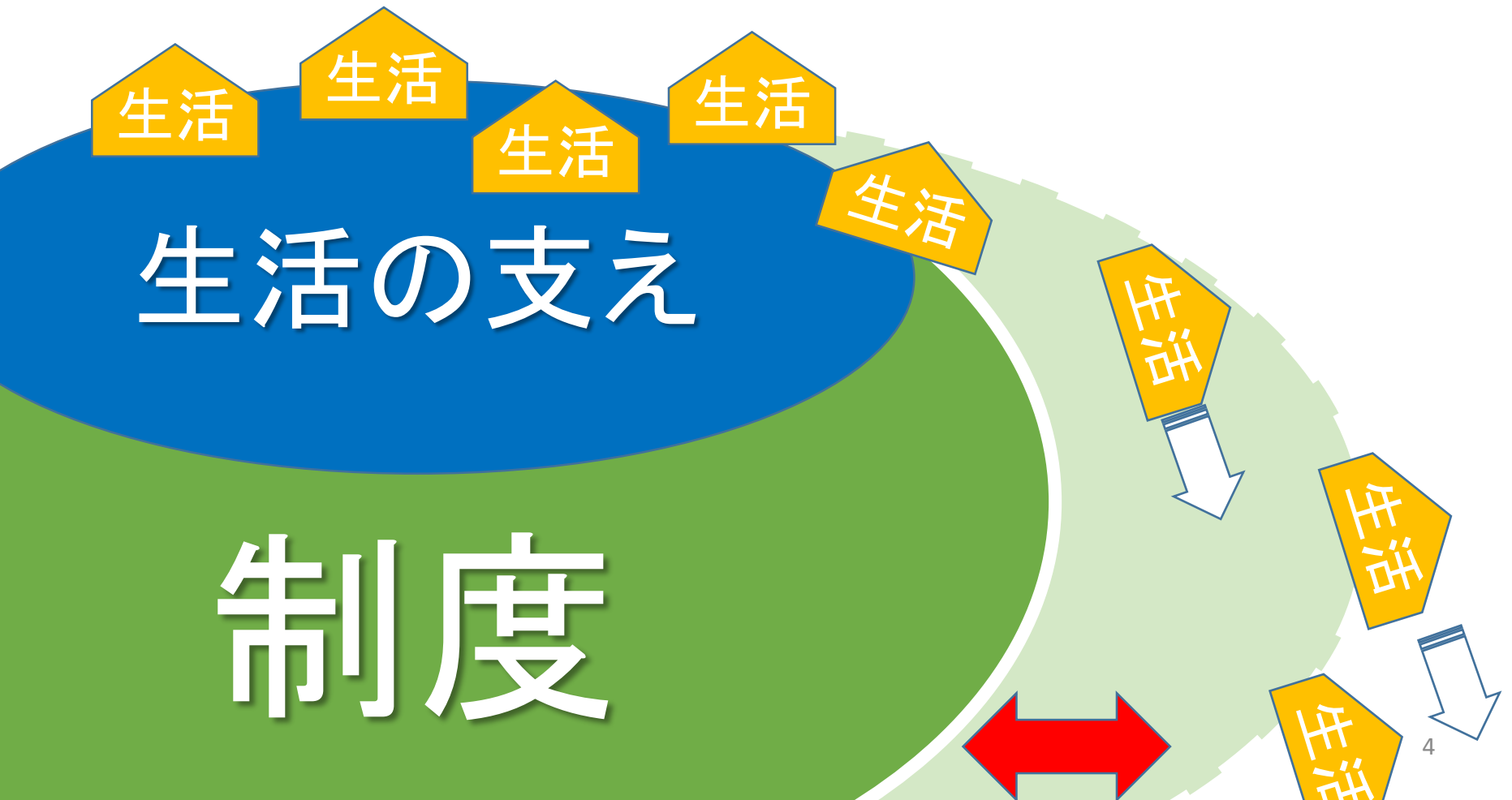
わたしのライフヒストリーと社会問題

○私のライフヒストリー

- ・「現代社会」の授業

札幌母親餓死事件(1987年1月22日)との出会い

「生活(生命)は、
制度のさじ加減ひとつで
保たれ、失われるんだ。」



●人権保障(権利擁護)活動に取り組むきっかけ

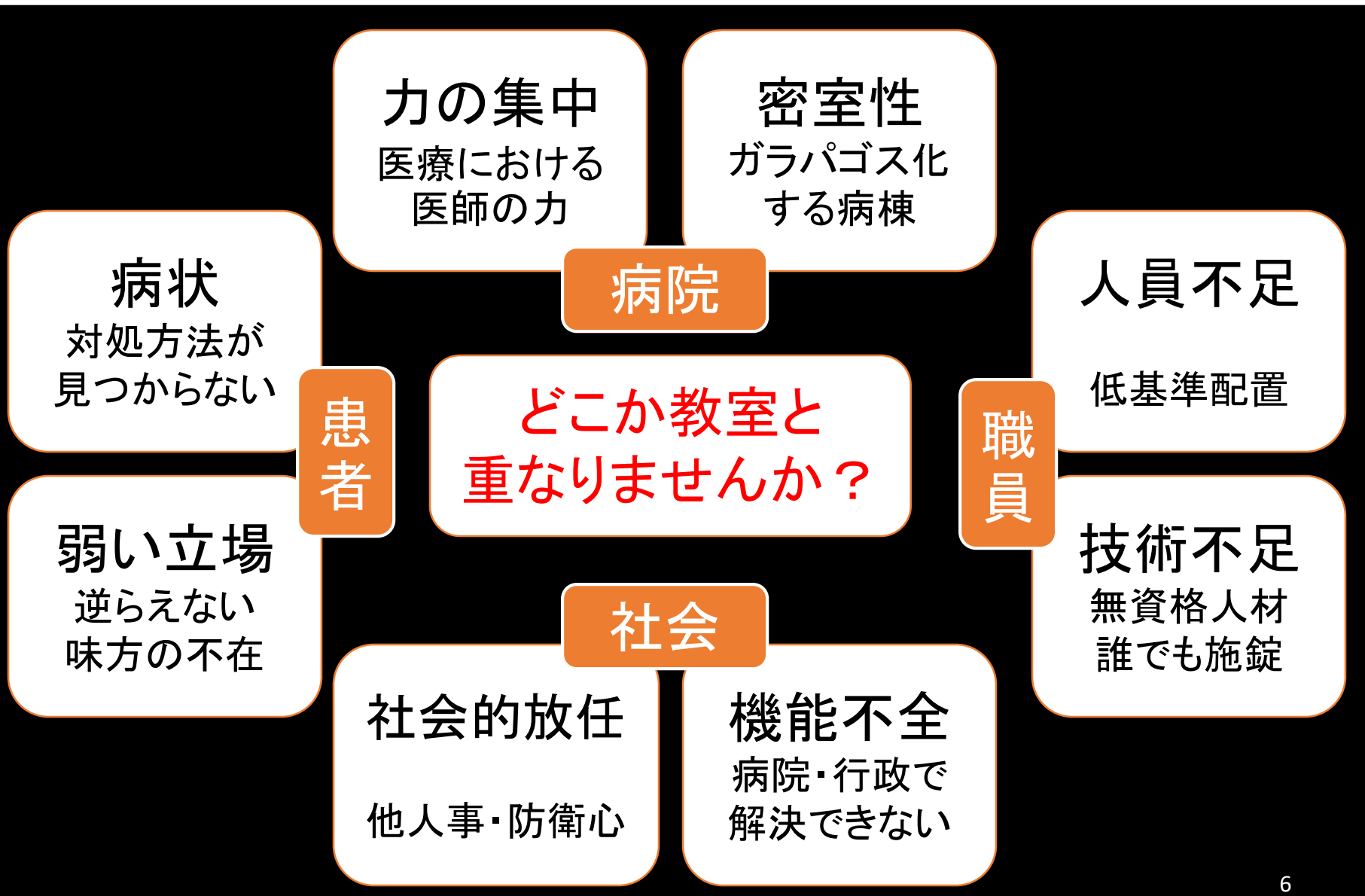
「病院にかつて入院していました。

病棟で、夜中に看護師が冗談半分で
患者を殴っているのを見ましたよ」

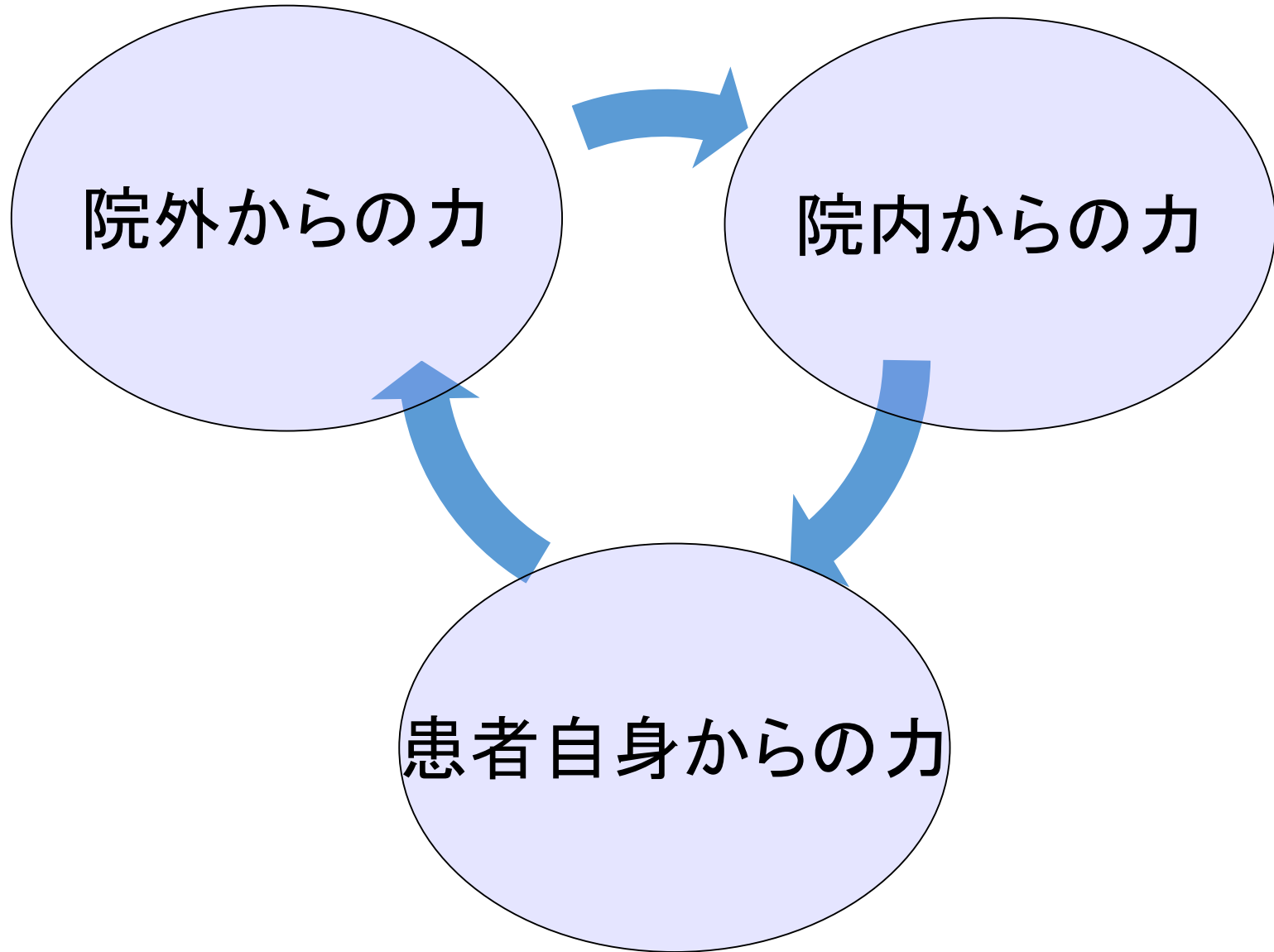
看護部長「外からの力が必要やねん」

外からできることを知り、外へ(2000年～)。

人権が喪失する、構造的な問題



風通しを良くする（開放性を高める）
追い風に帆を張る（力の循環）



海外では、閉鎖施設に毎週数時間の訪問滞在活動が定着

「声を聴く」→ 日常的な訪問と対話が虐待防止・早期対応に



(例) SF Mental health Client
Rights Advocates
(SFMHCRA)

障害者入所施設での「アドボカフェ」（2017～）

●「一緒に珈琲でも」とお声かけ。カフェを待たれるようになる。

●「お話しカード」の活用

▪ 個人として過ごす場

▪ 個人的な思いを
語れる場

▪ 家族のこと、
しんどいことが
語られるようになった



「言わんといてや」「親にこんなん言われてん」と

自立の件は

あきらめない

から

世間話、野球の話をしていたAさん。
2年越しで、アドボケイトに語られた
Aさんの思い。

「アドボカフェ」の意義

●「場」が変わると「顔」が変わり「言葉」が変わる

- ・「私の思い」を一対一で聴く、個別対話の場づくり。
- ・自身の「思い」と再会し、語りが深まっていく。

例：語られ始めた、悲しかったこと、辛かったこと

(意思表出支援)

(意見形成支援)



トコロ変われば、
カオ変わる。

Aさんには、人生の時間があつた

期待をしていた、〇〇歳の頃があつた

悔しいけれど、あきらめた〇〇の頃があつた

出会いのなかで、「もしかしたら」と揺れる時間があつた

その人の生きてきた人生への敬意と、
アドボケイトの理想を押し当てない、
Aさんを知ろうとすることばの聴き方、
Aさんの育んだものを尊ぶ、厳かな提案。

「啐啄同機（そつたくどうき）」

**そばであたためる ことばが生まれそうになる 気づいてつつく ことばが生まれる
あたため続ける ことばを育てる あたため続ける ことばを伝えられる**

コロナ禍で、「声を聴く」ための挑戦（2020～）



一人訪問
+ ZOOM
(交流)

コロナ禍で、訪問が中止となっても

声を聴くための、「アド・ポスト」

アド・ポスト



みみうさ

新型コロナウイルスのためアドポケットの定期訪問を中止しています。
アドポケットに、ご自由にご意見やお手紙などお寄せください。
定期的に（月に一度くらい）、アドポケットがポストを開けて中を
確認し、お返事させていただきます。 アドポケット一週

声に応答するための、「アドボチャンネル」
毎月配信 職員さんと視聴されている

3 子どものための権利擁護委員会とは

■ 設置の背景

体罰事案などの子どもの権利が著しく侵害される重大な事案が発生したことから、令和3年4月に尼崎市子どもの育ち支援条例を改正し、子どもの権利をしっかりと守るための仕組みを作ることとしました。

■ 位置付け



子どものための権利擁護委員会

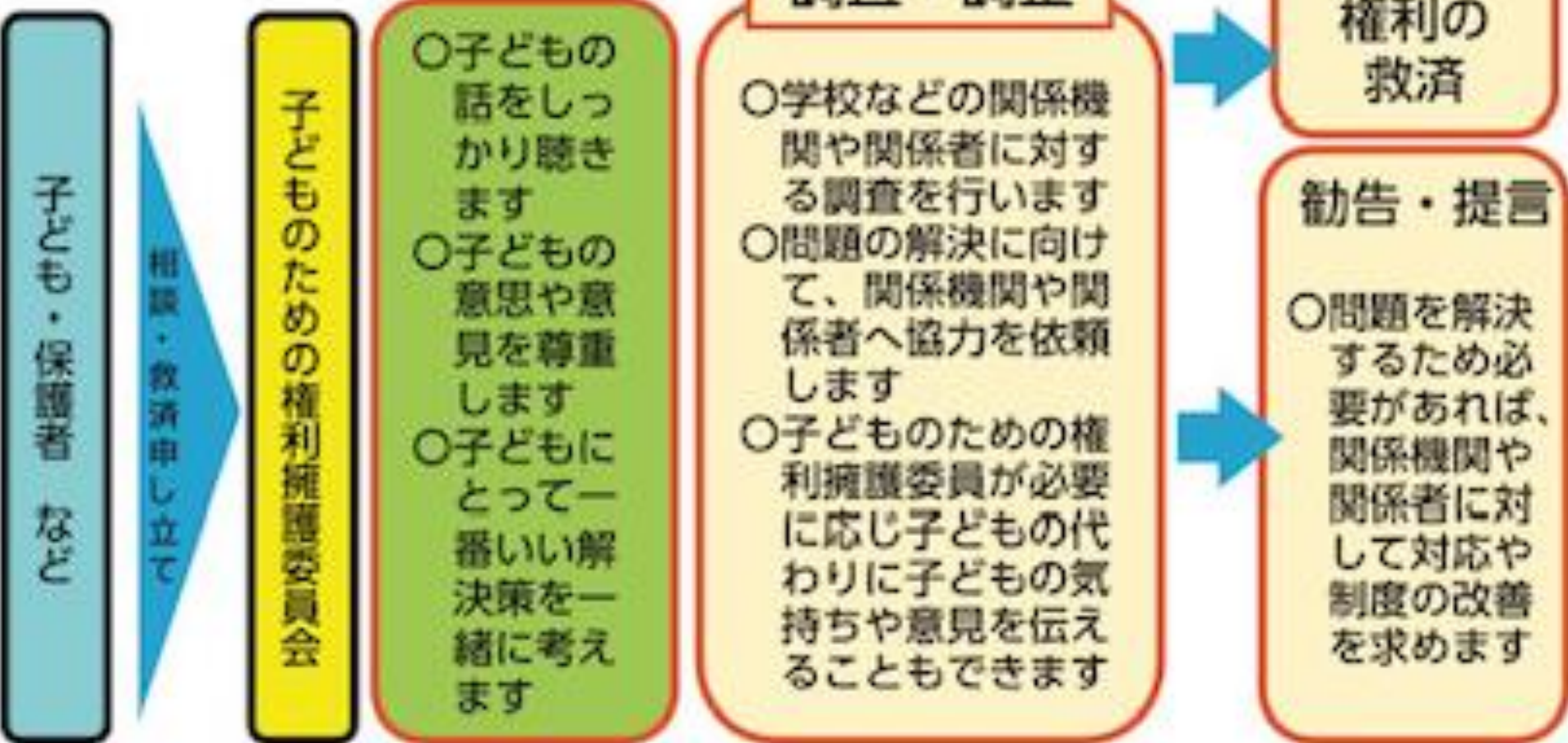


子どもを取り巻く関係機関

- 1 位置付け
尼崎市子どもの育ち支援条例第23条に基づき、子どもの人権擁護の事項に関して調査審議を行う独立性と専門性を有する機関
- 2 委員会の組織
 - ・委員 : 子どもの人権擁護について専門的な知識経験を有する者 (弁護士、大学教授、心理士など)
 - ・専門委員: 専門の事項を調査させるため専門的な知識経験を有する者
 - ・相談員 : 相談窓口における子どもの人権擁護に係る相談員
- 3 3つの機能
 - ① 調査・調整機能
 - ② 提言機能
 - ③ 広報・研修機能
- 4 開設日
令和3年4月1日 (※相談受付開始は令和3年7月1日から)

■ 機能

<調査・調整機能、提言機能>



まとめ **声**を聴き受ける・応答する活動

書籍①

「施設訪問 アドボカシーの理論と実践」

書籍②

「精神病院時代の終焉 当事者主体の支援に向かって」

書籍③

「アドボカシーってなに？ 施設訪問アドボカシーのはじめかた」

人の尊厳を守るアドボカシーの実践と研究
精神医療 → 障害者施設 → 子ども領域

1 私たちの社会

～精神科病院から見た景色～



はたして、

habitat ?
生きられる場 ?

それとも、

Danger zone ?
生きられない場 ?



だれでもなります、心のやまい

- 日本の総人口 約1億2484万人(2022年総務省)
- 精神疾患患者の人口(患者数)約419万人 人口の3%
- 統合失調症の患者人 約64万人 人口の0.5%

※未受診の人を加えると、人口の1%という調査も

- 気分(感情)障害 →そううつ病など
約125万人 人口の約1%

**約33人に1人の身近な病気です！
全ての人に、可能性があるんです。**

私たちの国で、今、何が起きているのか？
年間、「20, 830人」

- 1日 57人
- 10倍の「未遂」
- 交通事故死者数(年間2, 636人)の約10倍
- 10～30代で最多死因(先進国で日本のみ)

個人の治療だけではなく、
社会的理解や休める文化が必要とされている

わたしたちの生活

急速な時間の流れ
複雑・過大な役割
休めない文化

はみだし感

脱落感

医療の敷居

社会からの距離

就労への焦り

失敗への不安

あきらめ

求められている
「社会的理解」

精神科での入院治療・退院の壁

「こころの病を知らなかったから、
とても遠回りしてしまった・・・」
(患者・家族からの声)

「はよ知ってたら・・・」

保健体育教科書への記載

■1950年代から70年代の高校保健体育教科書では、旧優生保護法を推進する施策の影響下、精神疾患等を「悪質な遺伝」と断定し、「優生的処置を行う必要がある」と記述するものが多く、学校教科書批判もあって精神疾患等の記述はなくなっていた。

■2022（令和4）年度より開始される新学習指導要領に「**精神疾患の予防と回復**」が追加されることとなり、約40年ぶりに精神疾患に関する内容が学校で扱われることとなった。

■精神疾患に罹患する人の半数は14歳までに、75%は25歳までに発症しているが、思春期の若者は自らが精神疾患にかかると思っておらず、不調があっても精神疾患を疑うことなく、周囲も気づかない。さらには、精神疾患のある人や精神科医療機関に対する誤解や偏見も、精神疾患の発見・治療の遅れに影響しているため、若者を対象としたメンタルヘルスリテラシー向上の取り組みが注目されている。

新学習指導要領

■2022（令和4）年度から施行された新学習指導要領

- ・ **小学5年生**の体育（保健領域）の「不安や悩みへの対処」、**中学1年生**の保健体育（保健分野）の「ストレスへの対処」の内容を、新たに保健の「技能」と位置づけた。
- ・ **高等学校保健体育**（科目保健）には、「精神疾患の予防と回復」が追加された。

■高等学校の新学習指導要領解説によれば、「精神疾患の予防と回復」では「精神疾患の特徴」「精神疾患への対処」を扱い、「精神疾患の特徴」では、精神疾患が誰もがかかる可能性のある病気であること、思春期に発症しやすいことの他、具体的な疾患名として、うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害が挙げられている。「精神疾患への対処」には、セルフケアに関する内容、早期発見や専門家へ相談の必要性のみならず、それらを妨げる差別や偏見といった社会的障壁の問題も含まれる。

2 子どもたちの世界

↳それでも生き抜くために↳

「うまくいってるよ。」

「・・・しかたないかあ」

はじめは、いやだった。
でも、いってもむだだった。
じかんがたって、あきらめた。
「・・・しかたないかあ」って。

「そういうもんですよ」

それはね、きまっていることなんです。
きまっていることは、まもらないと。
みんなそうしてるんですよ。
かわるわけではないし。
そういうもんですよ。

「だれか、なんとかして」

しんどいな。つらいな。もたないな。

すくないな。たりないな。ほしいな。

うるさいな。こわいな。いたいな。

あわないな。でたいな。

にげたいな。だれかきいて。

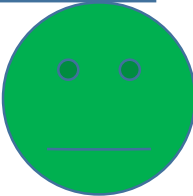
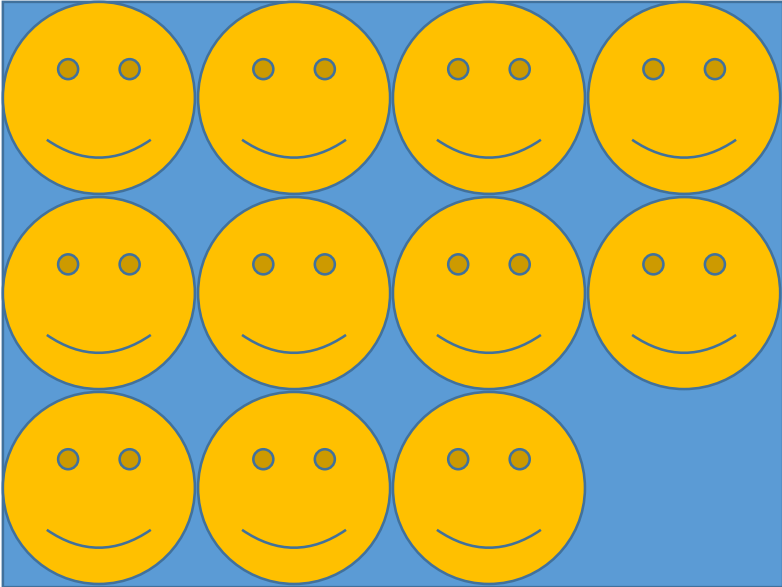
だれかなんとかして。

ふるすあるは 『ボクのせいかも』 絵本シリーズ

「ふるすあるは 動画」で検索してください。

朗読動画が無料で視聴できます！！

産業時代の「規格化」は、私たち「人」にも standardization



standardized goods
規格品

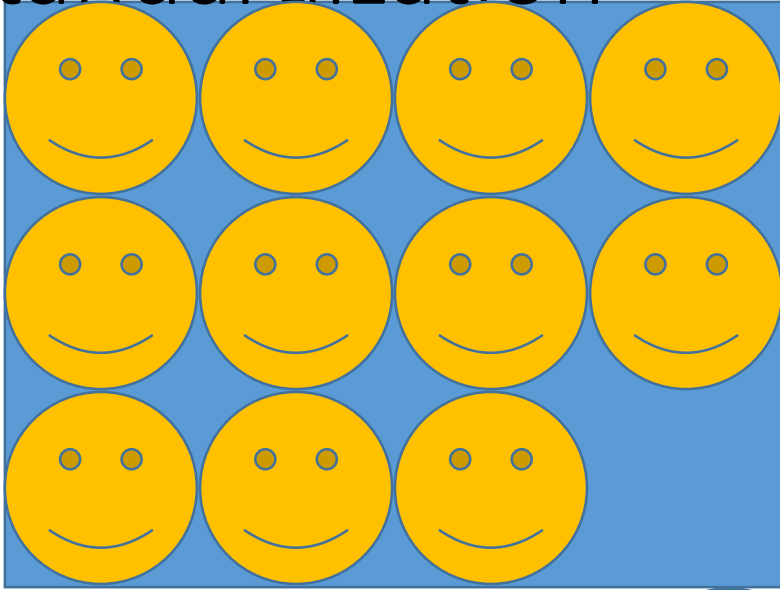
irregular
規格はずれ

lost
場を失う

danger zone
生存の危機

A grey sad smiley face with two dots for eyes and a downward-curving line for a mouth, located in the bottom right corner of the danger zone.

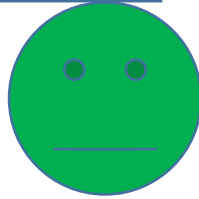
産業時代の「規格化」と同じように。 「同調圧力」を、私たちは生きのびた standardization



規範を身につけること

→「多数」に合わせる

→「異質」を避ける



standardized goods
規格品

irregular
規格はずれ

lost
場を失う

danger zone
生存の危機



わたしたちは、いろいろな「盾」を使って生きてきた。

いろいろな 盾 SHIELD

何重にも
バリアを
はる



顔を隠し
監視する



姿を消す



診断名に
守られる



闘う

威嚇する



笑う



多数派の
ふりをする

自分を
磨く



コミュカを
高める



他人へ
向ける

破滅的に
なる

「困らせる(ややこしい)人」と呼ばれる人は、
「**困っている人**」という視点。



はねられたことのある猫ちゃんにとっては、
「やらなきゃ、やられる」だったかもしれない。
威嚇され続けた猫ちゃんにとっては、
「威嚇」しか、表現手段を知らないのかもしれない。

☆私たちは、守りながら生きている

わたしたちの「盾」 → 自身を守るシステム
(参照: 村上龍「盾 SHIELD」幻冬舎、2006)

目の前の人、どのようにして「自身を守っているのだろうか？」
→ 盾には理由がある

目の前の人、どのようにして「自身を守ってきたのだろうか？」
→ 盾には歴史がある

必要だった古い盾、新しく手に入れてゆく新しい盾
☆ どんな変な盾と言われようが、
「それがあつたから、私は生きてこられた」。
その生き様を「尊重」し、「承認」し合うことが大切
「私にはそれが、松葉杖やった」

☆ 私自身を知る 私はどんな盾を使ってきたのだろうか？

「生きづらさ」と「盾」の一例

- 小学校4年生のときに、親の離婚で、ぼくだけ苗字が変わった。友達から名前のこといじられるの、嫌やったなあ。あのときは、「笑いをとるキャラ」で生き延びた

私を守ってきた「盾」の履歴

書くこと(外在化)は、私を読むこと(自己覚知)。
私が、私との関係を結び直すこと(自己肯定)。

幼少期

こんなことがあって

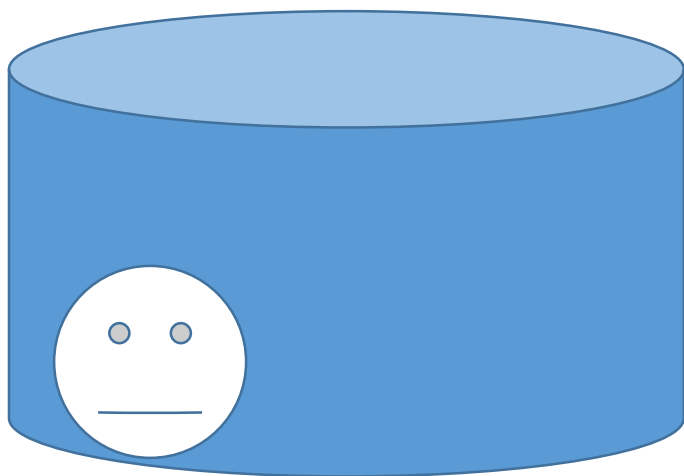
こんな盾をつかった

現在

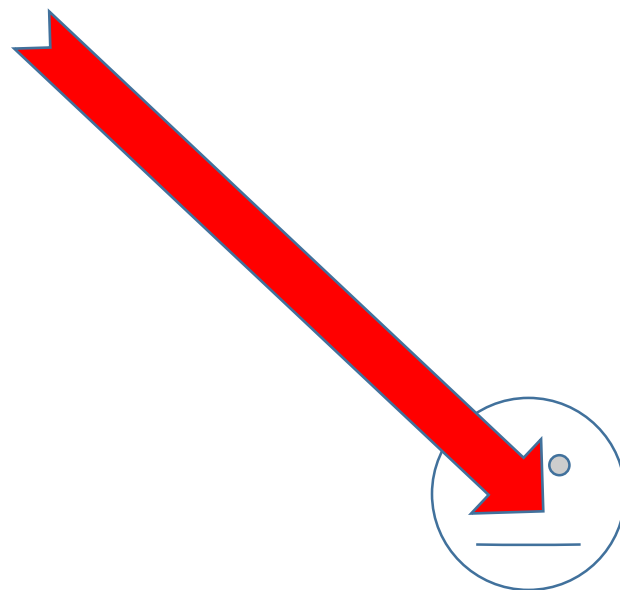
未来

だから、今日まで生きてこられた。ありがとう、私。

生きられない場で、 生き延びるための、ひきこもり



Shelter
生きるための避難所



danger zone
生きられない場

「助けて！」と
言える？

天童荒太・荒井良 『どーしたどーした』

中村ユキ 『わが家の母はビョーキです』

など

どの作品も、
「見かけて」はいるけれど、
「見えてはいない」、
おとなへのメッセージ

中学生の5.7%、高校生の4.1%

ヤングケアラーは、語り出し、繋がり出しています。
大学生発、精神疾患のある親をもつ25歳以下の支援団体

「ココテリ」

[HTTPS://COCOTELI.COM/](https://cocoteli.com/)

「助けて」を拒まれた
しつけ・指導された経験

「助けて」を我慢した
親・指導者の成功体験

私たちは、誰彼かまわず**痛みを語らない**。
「打ち明けたのに塩を塗られた、去った」や、
「語らないことで生きてこれた」へのデリカシー

☆「問いかけ」の前に、「**感受**」すること

- ・「**語られた痛み**」
- ・「**見て取れる痛み**」
- ・「語られていない、見て取れない、
隠された痛み」

思いを馳せる「どれだけの痛みなのだろう・・・」
「・・・言葉が見つからない」→「askの人」から「**listen**の人」へ。

☆「助けてほしい」を言える条件

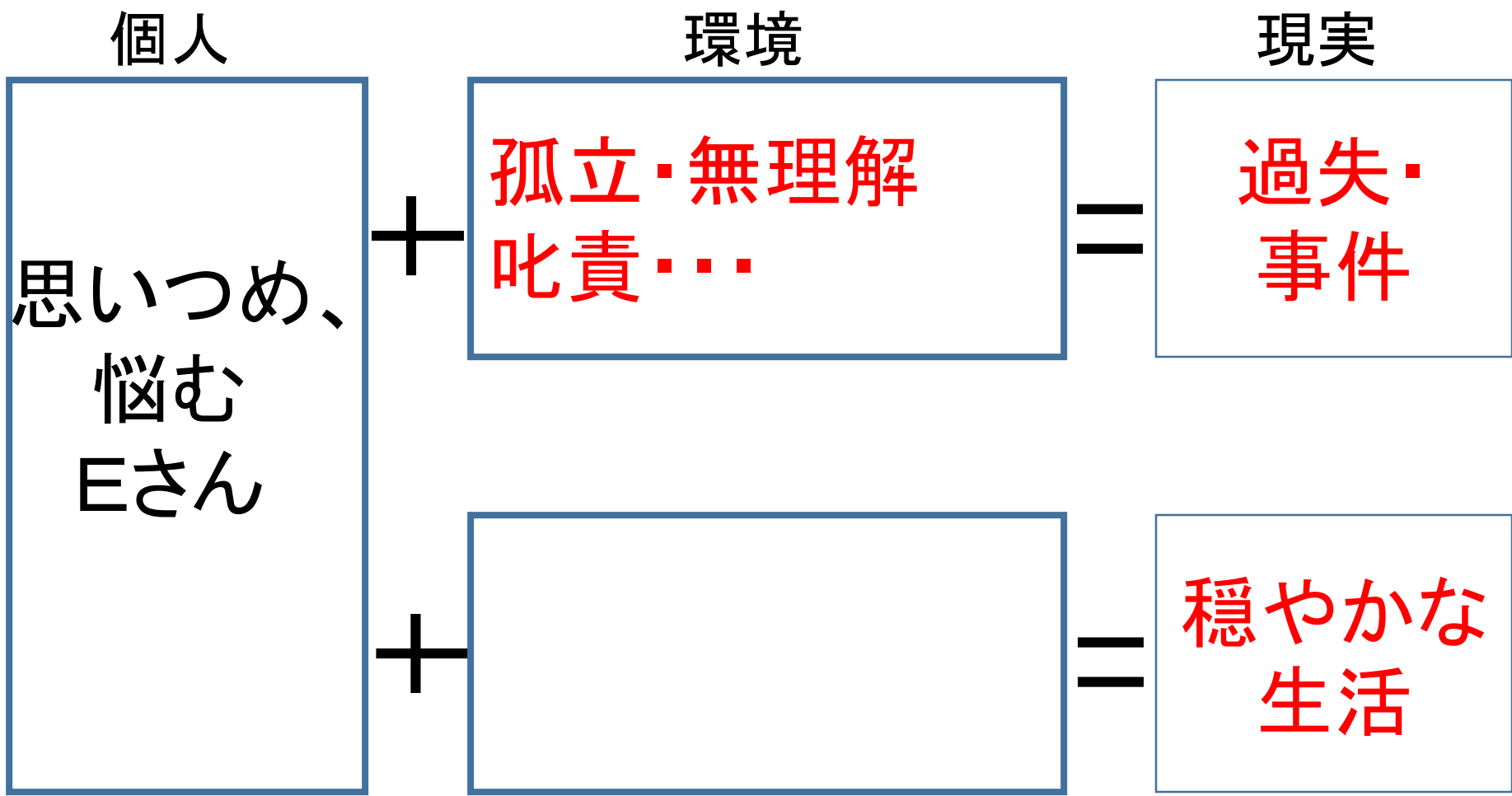
- 助けが必要だと「**認識**」している
- 助けてほしいと伝える「**能力**」がある
- 相手に助けられる「**可能性**」がある
- 相手を「**信頼**」することができる
- 両者が接近できる「**状況**」がある

★「助けてほしい」を
言えない場面があるということ
(個人要因・環境要因)

もしもいま、あのEさんが穏やかな生活を続けているとしたら、どんな周囲の環境があったのだろうか？

声掛けや応対、つながり、サポート体制・・・

Eさんの困りごとの世界に、寄り添って想像する。



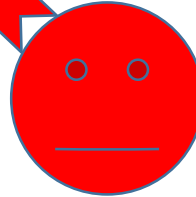
精神保健福祉の視点

「生きづらい場」で、
「生き延びる＝死なない」ために、
様々な手段が駆使される

不登校・ひきこもり
〇〇への依存
他者への爆発
暴力・犯罪

身体反応
幻聴など精神症状
自傷行為、依存症

学業や部活への没頭
非現実世界への没頭



「自己治療仮説」

例：お酒を飲むことで、死なずに生きのびようとしていた。
生きるための免疫反応

自傷 死への迂回路 (精神科医:松本俊彦)

「季刊 Be! 増刊号
『死にたい』『生きたい』—の間に
何があった?」2012、ASK

「自傷」 死への迂回路

- 「自傷行為とは、『その瞬間を生き延びるために』くりかえされながら、逆説的に死をたぐり寄せてしまうという意味で、『死への迂回路』とも言える行為なのです」

10代で致死性の低い自主行為を経験した
人が、10年後までに自殺既遂によって
死亡するリスク

数百倍

- 「たとえ『リストカットじゃ死ねない』と言えたとしても、『リストカットをする人は死なない』とは言えないのです」

自傷 死への迂回路 (精神科医:松本俊彦)

「季刊 Be! 増刊号
『死にたい』『生きたい』—の間に
何があった?」2012、ASK

人を自殺へと追いつめる3要因 (精神科医:トーマス・ジョイナー)

身につけられた自殺潜在能力

(自傷、拒食、過食、アルコール・薬物乱用)

「身体の痛みに対する慣れ」
「自殺のリハーサル」となり
心理的抵抗感が弱くなる

所属感の
減弱

「自分の居場所がない」、
「誰も自分を必要としていない」感覚

負担感の
知覚

「自分が生きていることが
周囲の迷惑になっている、
自分がない方が周囲は
幸せになれる」感覚

自傷 死への迂回路 (精神科医:松本俊彦)

「季刊 Be! 増刊号
『死にたい』『生きたい』—の間に
何があった?」2012、ASK

人を自殺へと追いつめる3要因 (精神科医:トーマス・ジョイナー)

- 裏返せば、援助者のすべきことが見える

自傷行為、摂食障害(拒食、過食)、
アルコール・薬物乱用の問題に介入する

自傷行為がすぐには
やめられなくても、
援助者として見守り、粘り
強くかかわり続ける

本人の自傷行為に
翻弄され疲弊してい
る家族を支援する

自傷 死への迂回路 (精神科医:松本俊彦)

「季刊 Be! 増刊号
『死にたい』『生きたい』—の間に
何があった？」2012、ASK

「助けを求める力」を高める

- 最大のゲートキーパーは「友だち」
- 「あなたの助けになりたい」と伝え、信頼できる大人につながる。

ACT

- 「Acknowledge(気づき)」
- 「Care(かかわり)」
- 「Tell(つなぎ)」

私の現場でできることを、
子どもと共に工夫していく

自分を傷つける生き方から回復する

「自分を傷つけずにはいられない 自傷から回復するためのヒント」

松本俊彦、2015、講談社

「最終的なゴールは、
自傷せざるをえない現実の状況や環境、
それに揺さぶられる不安定な感情の状態を
解決すること」

周囲の人にできること

- 「自傷をやめなさい」はやめる
- 「正直にはなしてくれてありがとう」
- 自傷の肯定的な面を確認したうえで共感する
- エスカレートに対する懸念を伝える
- Respond medically, not emotionally
(感情的に反応しない、医学的に反応する)
→ 傷に対して驚いたり、叱責したいり、過度に同情したり、
わざとらしく見ぬふりしたりしない
- 自傷の強化が少ない反応は、穏やかかつ冷静な態度で傷を観察し、丁寧に対応する
- 「どんな背景や問題があるのか」と冷静に考える
- 複数であたる、チームをつくる、心理的ゆとりを保つ

自殺防止における、「TALK」の原則

Tell	はっきり言葉に出して「あなたのことを心配している」と伝える。
Ask	死にたいと思っているかどうか、率直に尋ねる。
Listen	相手の絶望的な気持ちを徹底的に傾聴する。絶望的な気持ちを一生懸命受け止めて聞き役に回る。
Keep safe	危ないと思ったら、まず本人の安全を確保し周囲の人の協力を得て、適切な対処をする。

病み垢

病み垢とは？（学生さんの発表より）

主にTwitter上のアカウントのうち、もっぱら不安や愚痴などのネガティブな感情が吐露されているようなアカウントを指す意味で用いられる通俗的な言い方。いわゆる「病んでいるアカウント」。

典型的な病み垢は悲観的な言葉を連ねることに終始するが、自傷や服薬の様子を撮影した写真を投稿するアカウントもある。こうした病み垢を毛嫌いして排斥しようと試みる者が現れることもあり、「病み垢潰し」と呼ばれたりする。

（Weblio辞典 実用日本語表現辞典 より引用）

使っている人たち（学生さんの発表より）

私（学生さん）がみてきた人たち

- ・精神疾患を持っている人
- ・マイノリティの人
- ・精神科受診を迷っている人
- ・家庭に問題を抱える人（dv、モラハラ、機能不全家族）
- ・仕事、学校生活に対して不安を感じている人
- ・なんとなく疲れた人
- ・承認欲求が強い人
- ・恋愛に関する悩みを持つ人（メンヘラ、ヤンデレ）

体感

10代20代前半が多いが、40・50代（男性のほうが多い印象）もちらほら。

「家出」というワードにたかるオジサンがいる一方、仕事など生活環境で疲れ切った大人も。



はなし き おや せんせい ぼうりよく
話を聞いてもらえない。いじめられている。親や先生から暴力や
たいげつ う わたし ひんらく
体罰を受けた。など そんなときは私たちに連絡してください。

でんわ むりよう
電話(無料)
0120-968-622

あまがさきし なごうじ ちやうめ ばんごう
尼崎市若王寺2丁目18番5号

へいじつ どうよう ごぜん じ ごご じ
※平日・土曜:午前10時~午後6時

あまがさき・ひと咲きプラザ アマブラリ2階
へいじつ どうよう ごぜん じ ごご じ
※平日・土曜:午前10時~午後6時

メール
ama-kenriyogo@
city.amagasaki.hyogo.jp

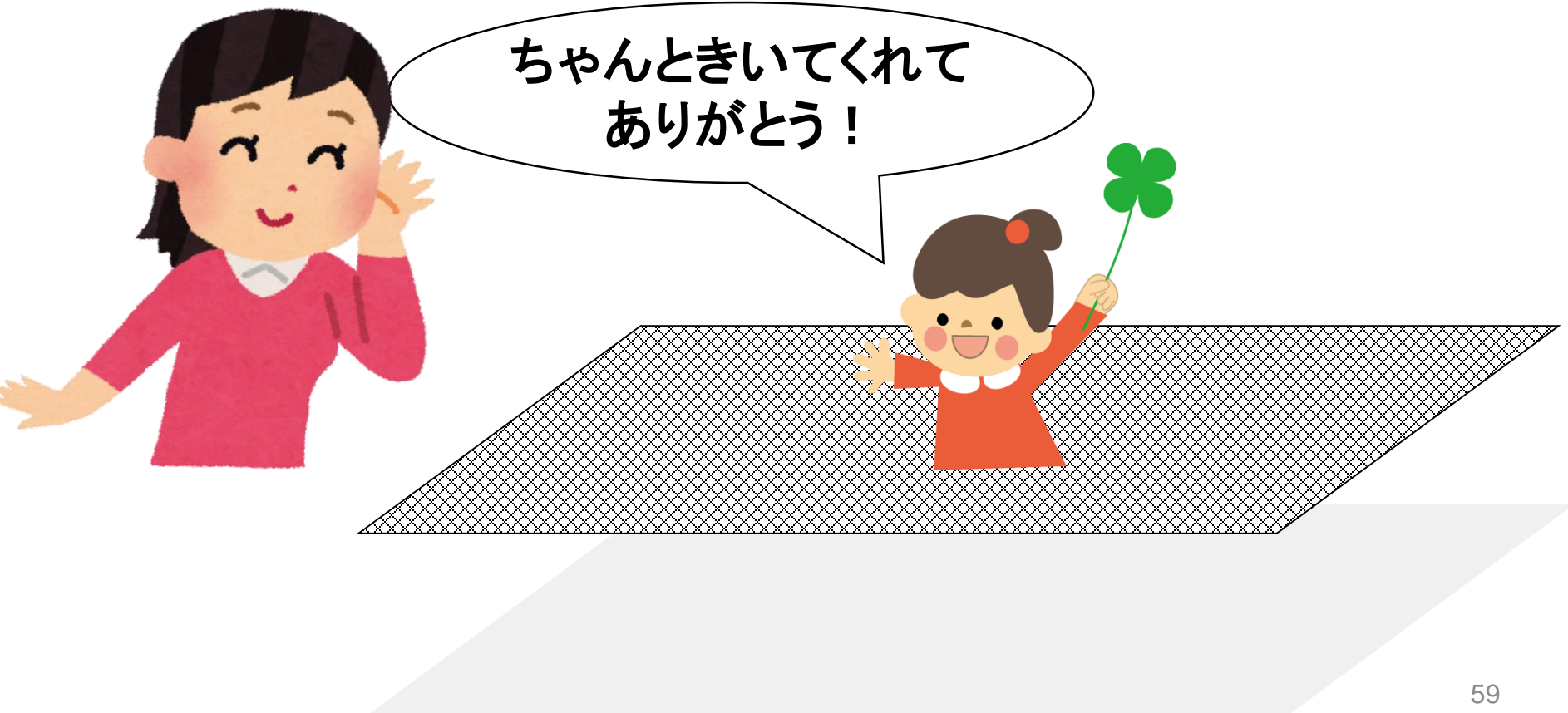
ライン
LINE
ともだちとろうく
友達登録
してね!

ホームページ
専用フォーム

ひよう か りません。ひみつ ぜったい まも
費用は掛かりません。秘密は絶対に守ります。

「尼崎市こどものための権利擁護委員会」
もっと「使える」ようにしていきます！

3 命を落とさないために ～声を聴く・応答する～



「Bくんの『やめたれや』」

このエピソードの中にある構造

嫌な思いをしていると「感じ」て、
「ほっといたらあかん」と考えて、「や
めたれや」を代わりに伝えた

「言ってくれてありがとう」
という気持ち

「やめたれや」と
言ったことで、
終わったという「結果」

「言ったらやり返させる」という怖さ、
「負ける」という無力の自覚、
「言っても無駄だ」というあきらめ

何も感じていなかったのが、
気まづくなった

「やめたれや」と言った
Bくん

嫌な思いをさせているA
くん

嫌な思いをしているけれど
言えなかった僕

私たちの日常と代弁

例1: 痛くて泣いてるこどもの代わりに、医者に症状を伝える親

→①言葉にならない中で、**言葉に整理し伝える**

例2: 座れない妊婦さんを見て、席を空けてあげてと若者に言う乗客

→②言葉を出す力がない中で、

力ある相手に通じる力を貸して伝える

例3: 言葉が通じない外国で、買い物の交渉をする通訳

→③言葉が伝わらない状況下で、**伝わる言葉に言い換える**

例4: 旅行代理店で、顧客の希望を汲んでプランを交渉する担当者

→④言葉が伝わる中で、**本当の希望を汲み取り叶える**

アドボカシーの起源：VOCO

「英語の“advocacy”とは、ラテン語の“VOCO”に由来する言葉である。

“VOCO”とは、英語で“to call”のことであり、『声を上げる』という意味である」

(西尾 2000:3) ※「ad」は「～の方へ」

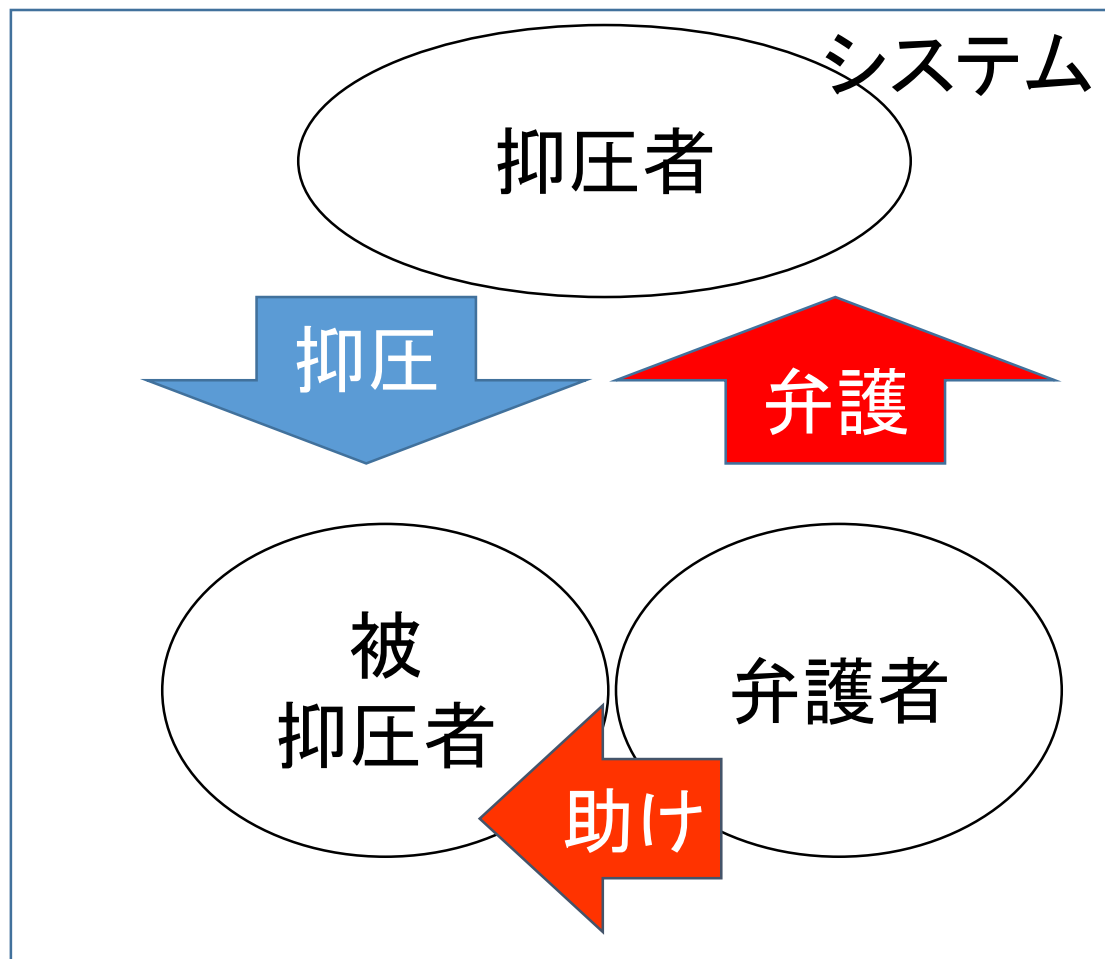
アドボカシーとは権利を侵害されている当事者のために「声を上げる」こと、すなわち「主張(唱道、弁護、支持する)」ことである。

「アドボカシー」の語源

「アドボカシー」

古代ギリシャ語「パラクレートス」に由来する、「助け、慰め、弁護する」

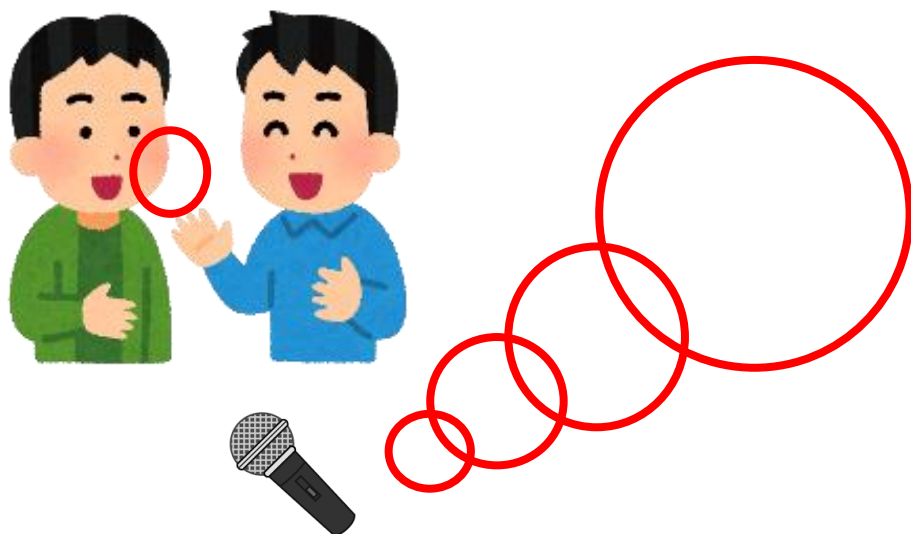
木原活信(2001)



弁護者は、
被抑圧者の状況に
働きかけつつ、
弁護する

「ゲーとチョコシカ
ない構造に、
パーが入る」

■ 「アドボケイトは、マイクです（英国）」



アドボカシー活動は
思いと声を聴く活動

思いと声を伝える活動

思いと声を生活に反映する活動

期待されるアドボカシー・システム アドボカシー・ジグソー・モデル

フォーマル・
アドボカシー

制度化されたもの

インフォーマル・
アドボカシー

制度化されていないもの

独立型・
アドボカシー

利害関係のない第三者

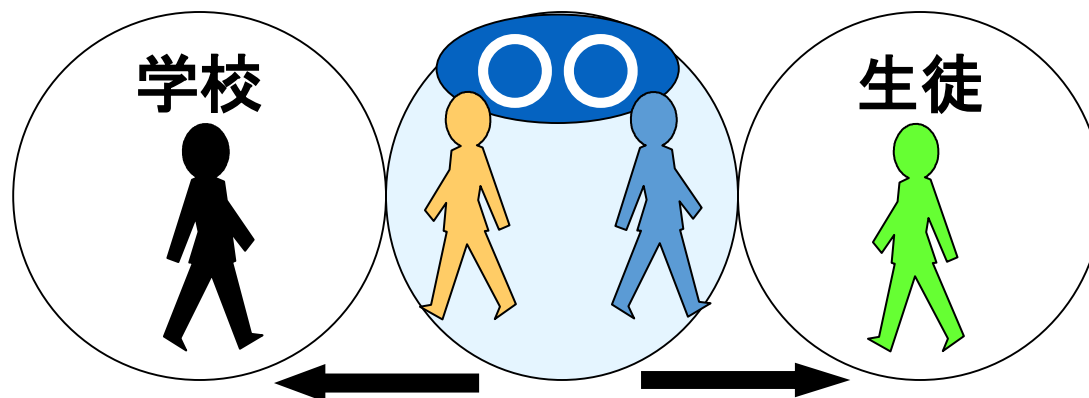
ピア・
アドボカシー

当事者同士によるもの

(それぞれの一長一短を補完する)

それぞれの葛藤 〇〇する職種ゆえの「二重拘束性」

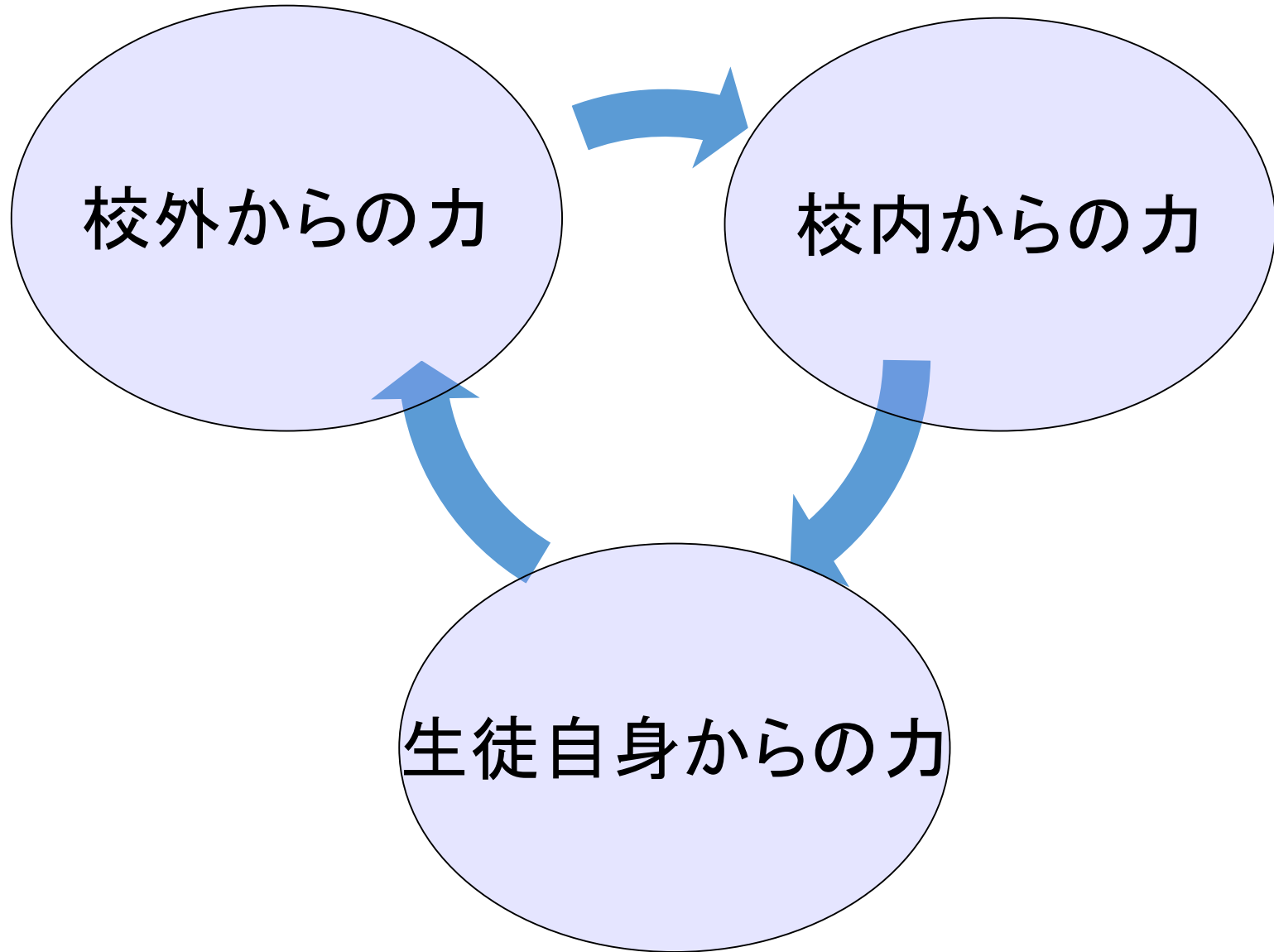
「〇〇」の私は
〇〇として校内で
「生徒の側」を思って
相談を受けつつ



「〇〇」の私は
〇〇として「学校の方針」を
生徒に伝える

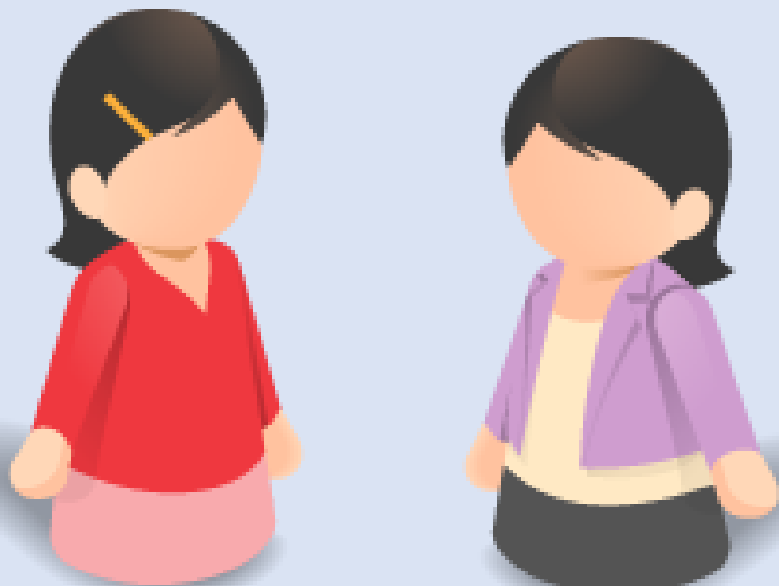
ジレンマが発生

風通しを良くする（開放性を高める）
追い風に帆を張る（力の循環）



声を出せない場・聴かれない場がある 声に加勢する独立アドボカシーが必要

「私は出たいんです。」



アドボケイト

「私は出たいんです。」



「〇〇さんは、退院計画を聞きたい、ちゃんと応対してほしい、出たいと願っています。」



①患者の願いに寄り添う人

②丁寧に願いを聴き整理する人

③中立ではなく必ず患者側に寄り、病院側に願いを伝え対話する人

独立したアドボケイトは、中立ではなく、本人の側。
(裁判で弁護士は、中立ではない。)

「利害のない関係」



アドボケイト



「独立性への
安心感」

医療法人からの
独立性

基本理解：人は思いを持ち、伝えられる

1 「ぼく、ひとりでいえるよ。」

発言主体者としての理解、奪力性(無力化)の理解

基本理解：人は時に味方を必要とする

2 「でも、ついてきてほしい
ときもあるんだ。」

環境との相互作用の理解、 課題の困難性の理解、
タイミングの理解、 依存による自立の理解

基本理解：人は時に代弁を必要とする

3 「かわりにいってほしい
ときもあるよ。」

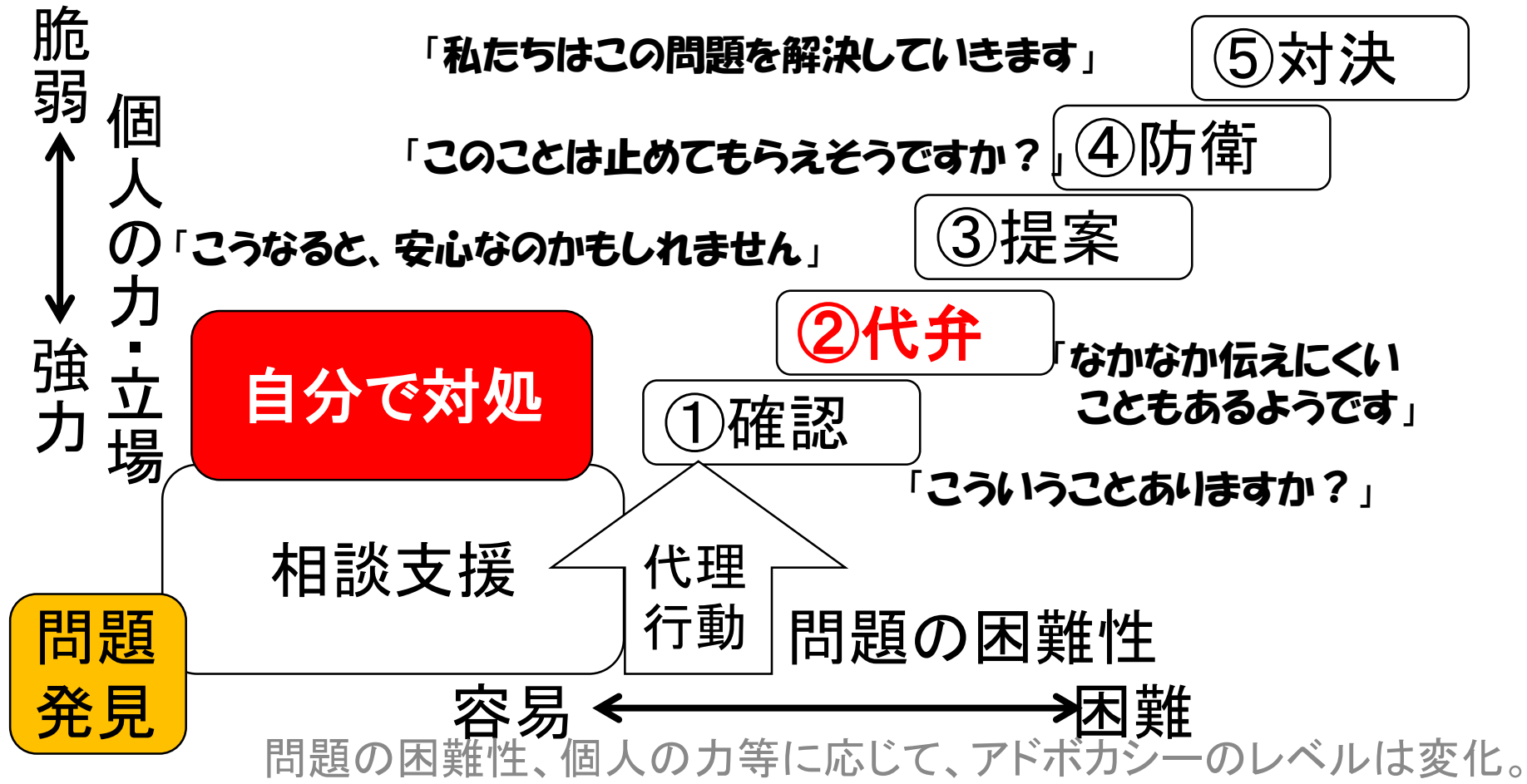
個人の価値観の理解、 目的(ゴール)の理解
(タスクゴール、プロセスゴール、リレーションシップゴール)

基本理解：人は安全と安心を必要とする

4 「あんしんして
はなしていいんだよ。」

人権の理解、意見表明権の理解

アドボカシーのプロセスと代弁のステージ (いきなり戦うわけではない)



「やめてほしい」を代弁する

■「やめてほしい」を伝える

グループで困りごとのタイプをひとつ選び、場面設定します。

「嫌な呼び名」、「嫌なルール」、

「嫌な役割」、「嫌な行事予定」、

「嫌な進路」、「嫌がらせ」

ステップ1 役割を決め、本人役からアドボケイト役に相談します。

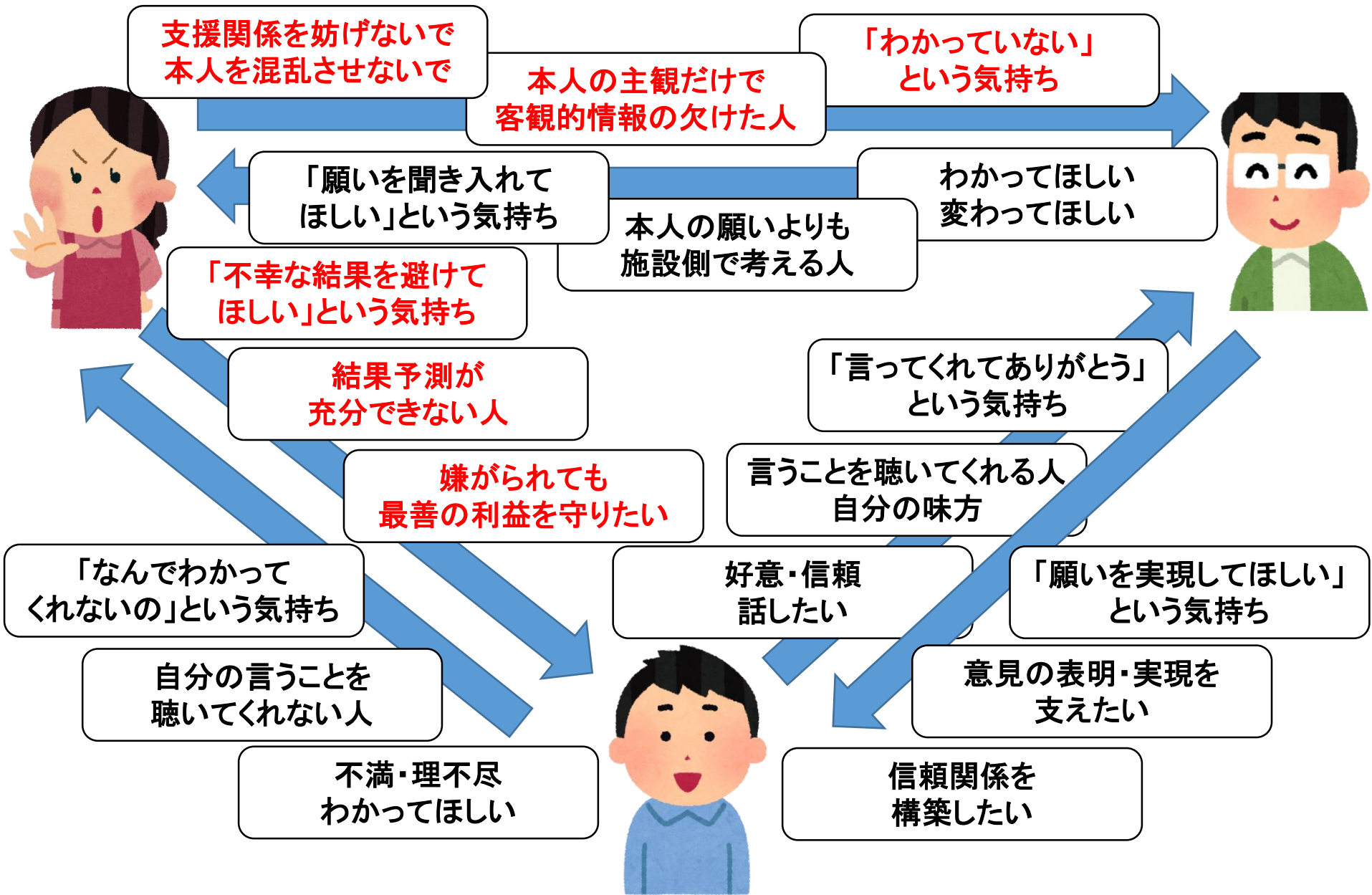
本人： 、アドボケイト： 、嫌な人：

ステップ2 アドボケイトは代弁して本人の前で嫌な人に伝えます。

Q:アドボケイト役の方は、どんなことを感じましたか？

Q:本人役の方は、どんなことを感じましたか？

「アドボカシー」をめぐって、生じやすい感情



親・教員・職員たちの葛藤

「手助けしたい」「自分でしてほしい」

「嫌われたくない」「嫌われてもいい」

「こどもが決めたらしい」「人手がないからしんどい」

「経験してほしい」「ダメージから守りたい」

「失敗は必要」「大失敗は傷が残る」

「主張してほしい」「主張されたくない」

「NOと言ってほしい」「YESと言ってほし

「自立してほしい」「必要とされたい」

こどもたちの葛藤

「行きたい」「行きたくない」

「決めたい」「決めて欲しい」

「努力したい」「楽したい」

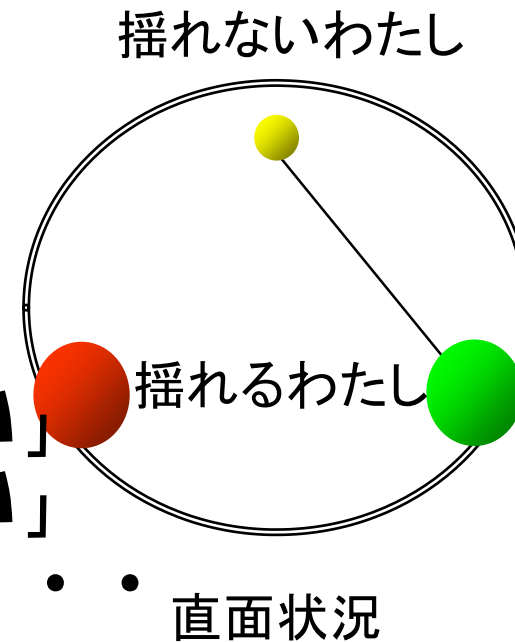
「挑戦したい」「傷つきたくない」

「信じたい」「裏切られたくない」
「生きたい」「生きたくない」

私たちは、**矛盾**ある存在

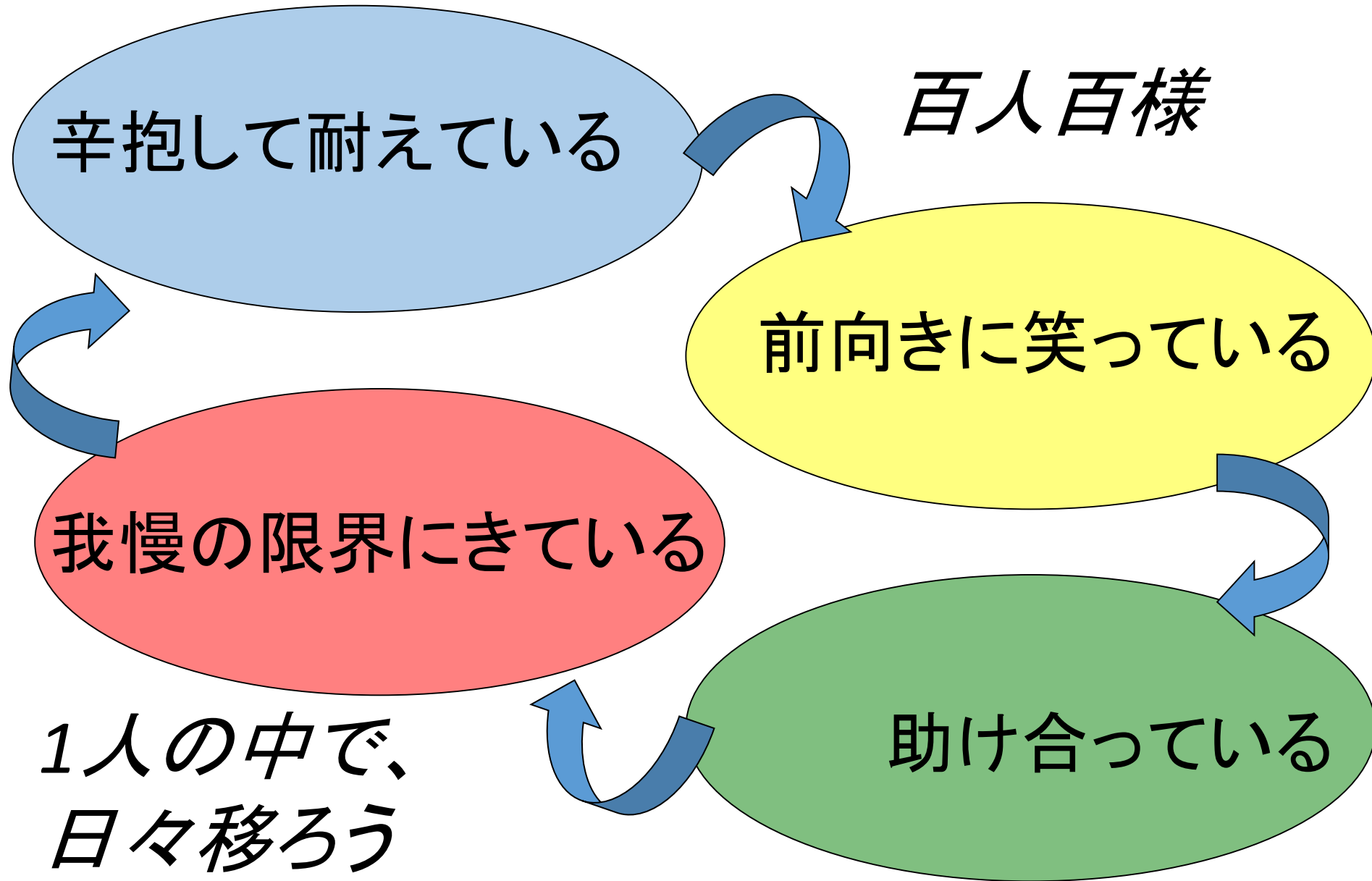
☆アンビヴァレンス
(両面価値的)との出会い

- 「自分でできる」 × 「頼りたい」
- 「なんとかしたい」 × 「逃げ出したい」
- 「受け入れたい」 × 「受け入れたくない」
- 「自分を愛したい」 × 「自分を罰したい」
- 「解決したい」 × 「解決したくない」・・・



「矛盾してるね」と、指さす人「=刃」になる？それとも、
「私もあるある」と、矛盾を肯定できる人「=土」になる？

「被災地は〇〇」→現地は、単純ではない



勝手に解決してしまおうとしない、 耐えるちから（ネガティブ・ケイパビリティ）

●ネガティブ・ケイパビリティ（不確実性への耐性）

確実ではないことを、「整理してしまわないで」耐えるちから。 → 見つめる・考える・尋ねるへ。

「ころころ意見が変わって、ふりまわされる」

リフレーミング：

→「何人ものところがあるから、話し合っている」

→「ころころのなかで、どんな人たちが、
話し合っているんだろう？」

「どんな背景がある人なんだろう？」

→「どの人こそ、大切にされたいのだろうか？」

・自転車の二つの車輪

(本人からの力・速さ・ブレーキとの連動)

・独善的にならないために、口より耳

(論理的に伝える力以上に、

聴いて相手の世界を理解する力が要)

・「まだ、終わってないんだ」さえ残れば・・・

失望の中の希望

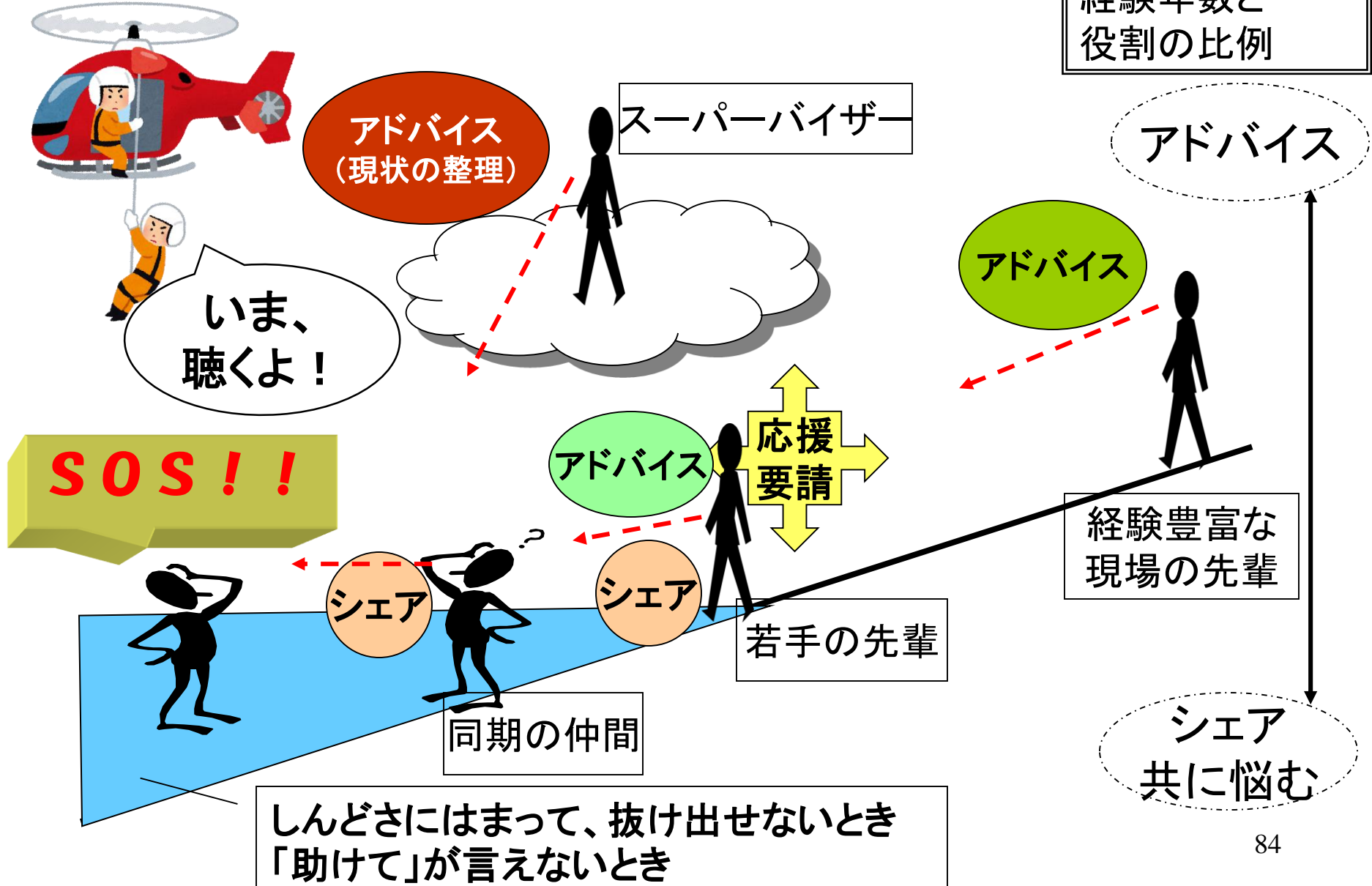
でも、先生が困り果てている・・・
子どもと同様に、「助けて」が出せない

山のように背負わされる
学校への社会課題、責任



「・・・もう、ムリ83・・・」

子どものSOS支えるには、大人のSOSを支える ～レスキューチームのように～



「話せない」空気を、それを生み出す要因を、自身の周りから入れ替えていくことから。

悩み・弱み・痛み・症状を
話すことができる社会



まずは、Aさんの声から。
「聴いてくれる一人がいるだけで」

「それは違う。そう言っても、わたし一人では信じてもらえない。
でも、明日のわたしは一人ではなく、二人になっているかも。」

多和田葉子『地球にちりばめられて』

何かひとつ、持ちかえっていただければ幸いです。

私にとってのヒント ・ 現場でしてみたいアイデア

ご清聴ありがとうございました。⁸⁷